

LPガスCP速報(2024年10月積)

1. 10月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **625** ^{ドル} (前月比+20^{ドル})

ブタン **620** ^{ドル} (前月比+25^{ドル})

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、中東市場は、OPECプラスの減産継続で産ガス国からの出荷は絞られ、スポット販売は限定的となった。サウジは国内需要(石化、発電用)でブタンも投入、インド、インドネシア、バングラディッシュなど南、東南アジアの需要増でアジア市場は需給がタイト化した。中国経済の低迷にもかかわらず、8月に低下したPDHの稼働率も9月に入り回復傾向、購入テンダーを増やしLPG需要を下支えした。極東CFR市況は、プロパン650~660^{ドル}、ブタン640~670^{ドル}で堅調に推移した

米国市場は、プロパン供給潤沢、需要は堅調も在庫は増加した。輸出はハリケーン「ベリル」の影響で過去最高水準から減少(グラフ③参照)、回復傾向も、「フランシーヌ」で再び遅延、在庫水準は5年平均レンジの最上部に張り付いている(グラフ②参照)。モンベルビュープロパンスポット価格は続落、月間平均で前月比50^{ドル}下落の340^{ドル}/ト^ンどころ(グラフ①参照)、原油市況の急落と気候要因(冷房需要の減少)も挙げられている。

フレート市況は続落、第3週で中東~極東30^{ドル}、米国~極東市場は80^{ドル}どころまで軟化した。パナマ運河の通航隻数は増加し、LPG線は全体の3割程度と安定的に推移。中東スポット販売がみられず、船腹供給過多で需給が緩んでいたが、インドの引き合いが出てきて一部吸収、北米ではインドネシア向け入札で成約、10下旬商戦本格化で市況は上向きか。

ナフサ市況は続落、月間平均は前月比28^{ドル}下落の645^{ドル}どころ。原油市況の下落と石化需要の低迷で一時616^{ドル}まで下げた。燃料油需要低迷で供給は減少、余剰ナフサはエチレンクラッカーでプロピレン生産もプロパンに生産得率は劣り、クラッカー向け需要は限定的。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は続落、月間平均で前月比30^{ドル}下落の450^{ドル}どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は大幅続落、前月比55^{ドル}下落の635^{ドル}どころ、原油市況の急落を受けた。C重油との格差は185^{ドル}に縮小した。

10月CPは前年同月比プロパン25^{ドル}、ブタン5^{ドル}のそれぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン8、ブタン9ポイント上昇、前年同月比ではプロパン25、ブタン23ポイント高い。

| | 第1週 | 第2週 | 第3週 | 第4週 | 平均 |
|-------------|-----|-----|-----|-----|----|
| フレート(中東-日本) | 60 | 40 | 30 | | |
| CP先物指標:P | 595 | 600 | 605 | | |
| CP先物指標:B | 590 | 605 | 610 | | |

② 原油市況等

9月の原油市況は急落、10日には66^{ドル}を割り込み2021年12月以来の安値となった。米、中経済減速、需要見通しの悪化、OPEC非加盟国の増産、OPECプラスの自主減産縮小計画で供給過多懸念が高まった。一方、イスラエルはガザ地区攻撃に続き、レバノンのヒズボラ本部を空爆し、最高指導者等幹部を殺害、中東情勢は緊迫化し、地政学リスクが高まった。市況下支えの要因となったリビアの原油生産、輸出の停止は、中央銀行総裁指名で東西勢力が合意し再開見通し。米国の需給は、ドライブシーズン終了でガソリン需要は減少したが、原油在庫の減少が続き、2022年4月以来の低水準となった。先物市場では、アルゴリズム取引を行う商品投資顧問業者(CTA)がロングポジションを手仕舞い売り、下げを加速させた。他方、プロンプトスプレッド(期近2限月)の逆ざやや一時1^{ドル}を突破していたが、下旬には0.5^{ドル}程度まで縮小、需給タイト感が緩和してきた。

○9月積みアラビアン・ライト(9月1~27日までの想定)は75.53^{ドル}(前月比-3.84^{ドル})

熱量等価AL100% プロパン619.27^{ドル}/ト^ン ブタン610.77^{ドル}/ト^ン

AL比 プロパン100.93% ブタン101.51%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

2. 2024年10月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

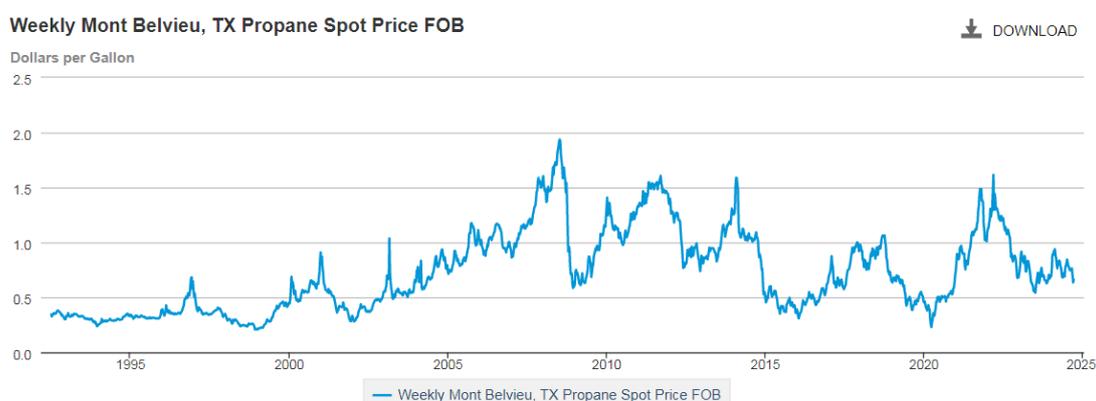
| 適用為替 | TTS | P円建CFR | B円建CFR | P前月比 | B前月比 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 9月月間 | 144.55 | 90,300 | 96,000 | -2,300 | +1,700 |

* TTS平均等について、各社の適用為替レートが昨年4月仕切改定から月間平均に統一された。

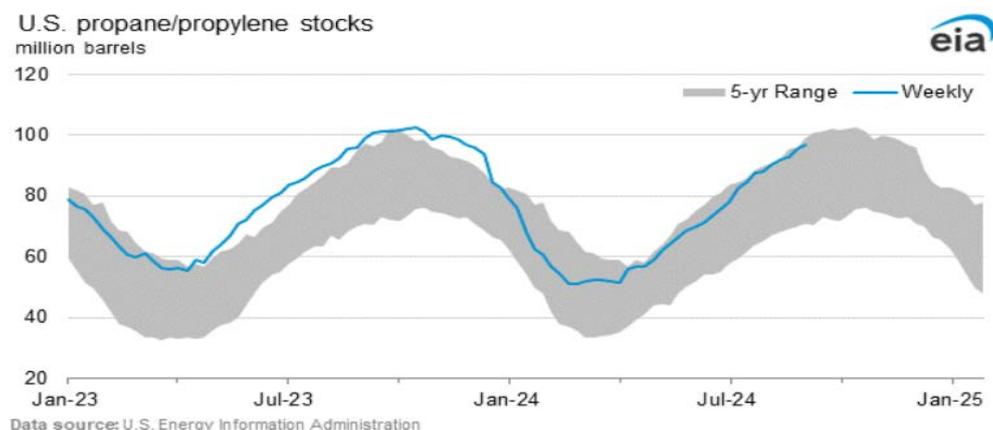
上記は9月1～30日までのTTS平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれ、各社で異なる。

なお、上記MBは9月26日までの価格を基にEINで試算（340ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

① 米国プロパンスポット価格推移



② 全米プロパン在庫推移



③ 米プロパン輸出货量推移



出典：EIA